

広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第2回運営委員会 会議録

日 時 平成26年10月15日(水) 15時00分～16時30分

場 所 まちづくり市民交流プラザ 南棟4階協議室

出席者 (委員) 波多野委員長、柿本委員、中島委員、東委員、弘中委員
(プラザ) 田村館長、樋口主任

議事及び会議要旨

議事1 平成26年度事業の進捗状況について

事務局から、平成26年度事業の9月末現在の進捗状況の報告と10月以降の実施計画の説明を行い、意見が交わされた。

- ・高齢者向けのプログラムについてのニーズが多いということだが、どのような内容か。新聞等でも認知症や介護の問題が取り上げられている。そうした情報が求められていると思うので、積極的に情報提供していくとよい。
- 介護予防や終活に関するものなどの学習ニーズが増えていると感じる。
- ・高齢者向けの音楽療法なども有意義である。音楽で人と人をつなぐことができる。
- ・ボランティアをしたい人が増えている。子育てが終わった世代が活躍の場を求めるケースも増えている。
- ・この度の広島土砂災害が起きて、特に地域のつながりの大切さ、必要性を感じる。
- プラザとして何ができるか。自問自答しているところである。
- ・プラザでも災害を教訓とした講座を実施してはどうか。ボランティア、コミュニティなどのテーマが考えられる。何らかの行動につながるまでの学習ができるるとよい。
- ・今回の災害に際してボランティアとして活動した人たちに、動機や体験談などを聞く場をプラザでつくってみるとよいのでは。
- ・老若男女それぞれに出来るボランティアがある。経験の有る無しは関係ない。ボランティアはやる気が大切である。
- ・若者はボランティアをとおして世代間の交流を経験し学んでいる。
- ・どこで災害が起きてもやるべきことは同じであり、プラザが今回の災害ボランティアに関する情報を集めて分析し、データベース化するとよい。また、その情報は発信していくことが重要なので、そのための講座を企画してみてもどうか。
- ・今回のような緊急時には、特に地域のリーダーの役割が重要だと感じる。
- ・ボランティア活動におけるコーディネーターの養成も大きな課題である。
- ・入館者数だが、前年度の同時期と比べて増えている。市民交流フェスタの開催時期が5月から12月に変更になったにもかかわらずこの数値というのは非常によいのではないかと。
- ・印刷サービスの件数が若干減少しているとの話があったが、公民館等の印刷サービスが充実した影響もあるのではないかと。同じように印刷できるのであれば、より近いところを利用するものである。
- ・印刷サービスの中でどのような利用が多いのか分析してみる必要がある。

- ・パソコンやプリンターの機能の充実や、用紙の質や色のバリエーションを増やすなど、プラザでなければ出来ないようなサービスがあれば、利用は増えるように思う。

議事2 運営委員会の進め方について

運営委員会をより充実したものにするために、今後の進め方について意見が交わされた。

- ・開催回数だが、年3回というのはプラザとしてどうか。また、現在は毎回事業計画をもとに協議しているが、事業計画についてはある程度軌道に乗っている。プラザとしては、運営委員会でのどのような協議がされるのがよいと考えているか。

○運営委員会は年3～4回の開催としているが、定期的な報告の場としては丁度よい回数と考えている。運営委員会は施設運営全般に関して外部からの意見を伺う場である。そのためより実のある協議ができればと思う。

- ・議題を委員から提示してもらう方法とプラザから提示する方法の2通りがあるのではないか。
- ・具体的なテーマを決めて協議するのがよいと思う。
- ・事前に次回の協議テーマが提示されていれば、各委員はあらかじめ検討のうえ会議に臨むことができる。
- ・プラザからの報告事項もあってよいが、その場合は資料作成に手のかからないやり方にした方がよい。
- ・具体的なテーマとして、若者をプラザに呼び込む方法について協議するというのはどうか。プラザに足を運ぶ若者を増やすことに取り組めないものか。
- ・若者（学生等）は、職員と話をすることにより、その職員に会いたくてプラザに行くようになると考えられる。
- ・人間関係を求めているということではないか。それは、シニア層も同じことが言える。
- ・今後、一つのテーマを取り上げて協議していくこととし、次回の運営委員会についてはプラザからテーマを出してもらうことにしてはどうか。各委員からも協議したいテーマがあればプラザに連絡するということで。

(全員了承)

議事3. その他について

次回の運営委員会は、平成26年2月18日（水）午後3時からの開催とする。

閉会